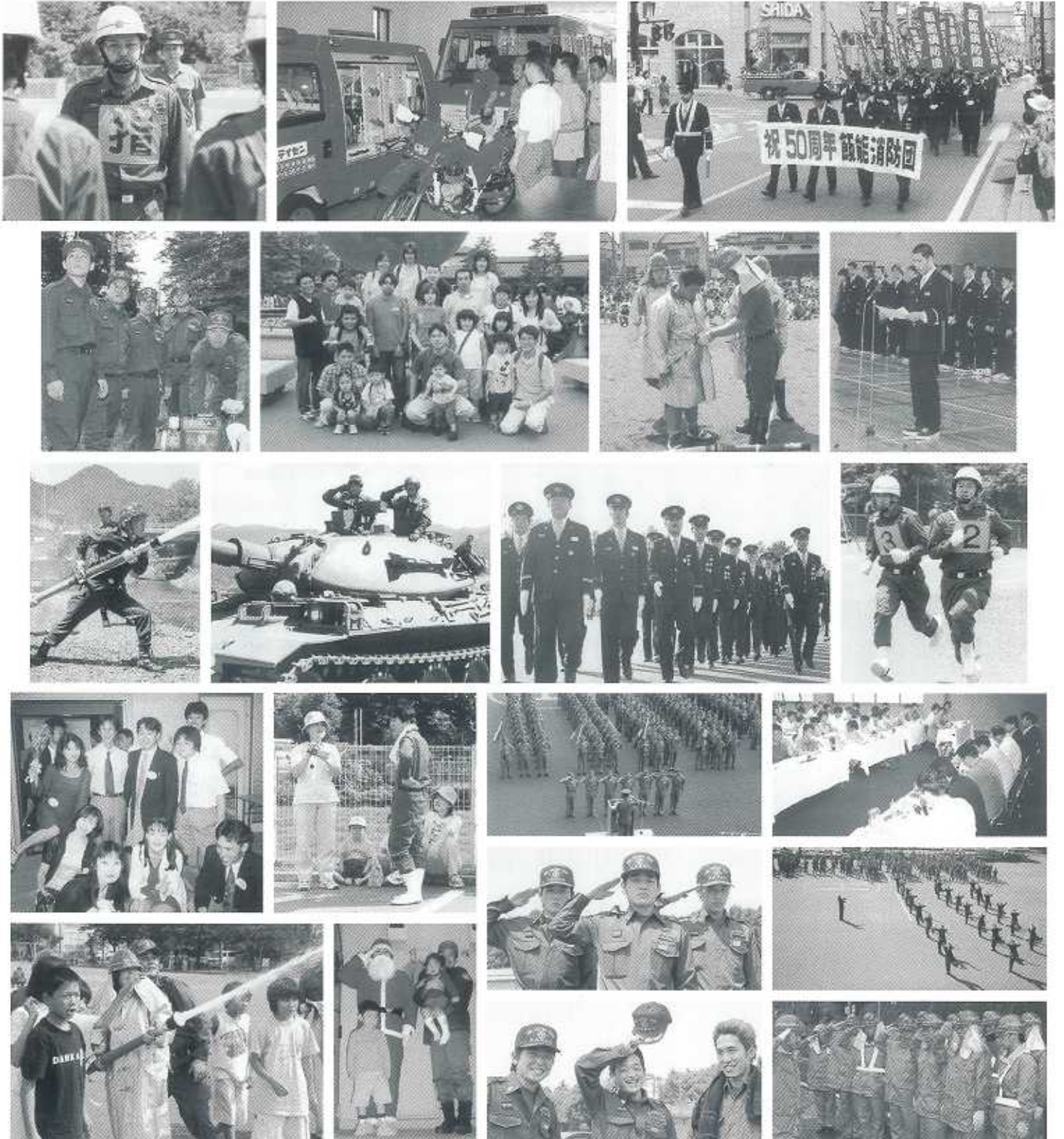




かわらばん

第10号



お陰様で「かわらばん」は発行10周年を迎えることができました

飯能団の良さは

入らないとわからない!?

私たち広報委員会では現役の団員が何を思い、そして団の将来をどのように考えているのかを知るため、一一人を無作為に抽出してアンケート調査を実施しました。ほとんどの人が仕方なしに入団したにもかかわらず、入団後は四割の人が積極的に続けていきたいと答えています。それはどうしてなのでしょう?

「なぜ入団したのか?」という質問です。これには、「何度も勧誘されて」、「しょうがなし」、「半ば強制だった」、「騙されて」などという極めて消極的理由が九十八名で全体の八割に達しています。中には「地元に対して貢献したかったから」という奇特な人もいました。他には「友人が入っ

ているから」、「他所から来たので」という答えもありました。次に「イヤイヤ入ったのな」と聞きました。これには、「新団員が入ってこない」、「任期内だから」という理由が七十名で約六割を占めました。その次に多いのが「地元で貢献したいから」、「入ったからには責任があるから」などが二十三名、「入ってみたら楽しかった」、「好きだから」、「辞めたくない」などが二十名となりました。

不本意ながら入団した人がほとんどなのに、入団後は四割の人が積極的に続けたいと思っているようです。このように意識が変化するのはなぜでしょうか?



消防団は世代や仕事・趣味

が異なる人達と、火災や訓練などで行動を共にします。現場の行動で一番大切なのは意思の疎通とチームワークです。このため飯能団では新しく団員が入ってきた場合、新しい兄弟ができたように接し、面倒をみる伝統があります。

「貢献したいから」という気持ちで入ったから、入ったからには責任があるから」などが二十三名、「入ってみたら楽しかった」、「好きだから」、「辞めたくない」などが二十名となりました。

「新入団員が入ってこないから辞められない」が一番多い回答ですが、本当に退団したいなら、新入団員の有無にかかわらず辞表を提出するのではないのでしょうか。新入団員がいらないからと答えた団員は、組織と仲間を思う責任感のある優しい人とも言えます。

新入団員を確保するために現役の団員が勧誘に歩くことが多くなっています。

「団員の勧誘に行き感じたこと」も聞いてみました。

この質問に対しては「親が本人に会わせてくれない」、「親が断る」、「親の理解がまったくない」といった答えが最も多く、中には自治会役員宅を訪ねたところ、母親から「消防団は」、「荒くれ者の入る組織だ」とまで言われたという回答もありました。他には「まったく他人事」、「門前払い」、「悪い先人親がある」などがほとんどで、団員確保に難渋している姿が浮かび上がります。

「これからの消防団に何を求めるか?」の質問には、様々な意見が寄せられました。訓練に関する意見が多く、「訓練時間に無駄がある」、「時間短縮と合理化」、「現場で役立つ訓練」、「時代に合った活動に改革すべき」、「出動回数削減」などが寄せられました。「年俸を上げて欲しい」という意見も回答の半数以上を占めました。新入団員の確保に

ついては意見は多く、「後援会・自治会・本部と協議し現役の団員のみを負担をかけない方針を早急に示すべき」、「行政・本部でがんばって欲しい」、「特別職の地方公務員なのに行政が何もしないのはおかしい」などの回答がありました。

「携帯のつながらない所がある」のでトランシーバーが欲しい」など装備の充実を求める声も寄せられています。他には「消防団に対する先入観や悪いイメージを払拭することが必要」、「入りやすい団にして欲しい」、「レクリエーションを活発にしてイメージを変えて欲しい」など誤解を解くための広報活動を求める声もありました。

そこで次のページでは分団ごとの訓練以外の活動を紹介いたします。

飯能団は今後も団員からの意見や要望を聞いて地域に愛され、若者が入団しやすい組織になるよう取り組んでまいります。市民の皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。

訓練だけじゃないんです

第一分団

原町・前出
中山

毎年研修旅行を開催して団員間の親睦を図っています。ねるとんパーティを開催したところ、めでたくカップルとなり、結婚した団員が我が一分団にいます。今では良きお父さんになり、家族に支えられながら日夜活動しています。

第二分団

一丁白二丁目
柳原・更町

何と言っても真夏のバーベキューでしょう。奥さんや子供たちを交えて和気藹々と楽しんでいきます。もちろん旅行も毎年開催しています。二日間は日頃の訓練を忘れて楽しめます。結束の強さは訓練だけでは決して生まれません。

第三分団

三日月の宮前
大河原・土郷

親睦旅行はゴルフ組と観光組に分かれて趣味の合う者同士でそれぞれに楽しんでいきます。隣接分団と協力して第一小学校で放水を披露し、子供たちにも体験してもらっています。チビッコたちからは尊敬のまなざしで、見つめられ質問され、ちよつと照れくさく恥ずかしいですが、子供好きには最高の行事となっています。

第四分団

第二区・永田
永田台

周りの分団に触発されたわけではありませんが、今年から家族の慰安を兼ねたバーベキュー大会を始めました。これが予想以上に盛り上がり、定例化するのは確実となりました。親睦旅行も口では言い表せないほど楽しく、新入団員は旅行に行つて本物の団員になる、と四分団ではいわれています。訓練は本気、遊びはもつと元気、団長ごめんなさい。

第五分団

南高藤

正直に言いますと訓練以外の活動は大好きで、夏はバーベキュー、冬は忘年会（今年も泊まりにしようかという声も出て……）、そして親睦旅行と、みんなで集まっては楽しんでいます。分団という組織は消防活動だけに留まらず、世代を超えた付き合いを可能にしています。趣味の仲間が増えたり、何かを始めるきっかけになったり、時には仕事が増えることもあるんです。

第六分団

加治

十個分団の中で平均年齢が一番若いだけあって、元気一杯です。親睦旅行、スキーなどを積極的に開催しています。分団対抗ゴルフ大会には精銳を派遣し、常に上位の成績を上げています。加治地区の体育祭では聖火リレーの警備に携わるとともに、消防操法の展示も行っています。地域のお祭りや盆踊りの警備にもついて、地域と密着して活動しています。

第七分団

精明

飯能団の中でサッカーチームを持っている唯一の分団です。練習や試合は訓練のない夜間や休日に行っています。サッカーはチームワークが大切なスポーツです。訓練は真剣に取り組み、サッカーは緊張を解いて楽しむことによつて、分団がさらにまとまっていくな気がします。もちろん年一回の親睦旅行や年一回の懇親会もまじめに開催しています。

第八分団

原市場

団員の意見や提案でいろいろな行事を行っています。昨年ねるとんパーティを独身者のために開催したところ、女性の参加者が予想以上に多く、大変盛り上がりました。ある部ではクリスマスに団員がサントに衣装して団員の家にプレゼントを届けます。子供たちは大喜びで歓声を上げてサントを迎えてくれます。仲間を愛し、家族・地域に愛される分団を目指しています。

第九分団

東吉野



年齢層が幅広いのでできる限り意思の疎通を図るようにしています。分団では親睦旅行・バーベキューを開催し独自の広報紙も発行しています。それぞれの部では会食や懇親会を通じ親睦を深め結束を強めています。そのかいあって、今年の分団対抗ゴルフ大会では見事優勝しました。

第十分団

吾野

吾野分署との懇親会をはじめ、年一回研修旅行を開催しています。夏は家族を交えてのバーベキューが好評です。団主催の家族慰安会「デイズニールランドの旅」にも毎年多数の団員家族が出席しています。みんなが楽しみにしています。



11月22日(土)午前7時50分より防災センターで飯能消防団特別点検が行われます。ぜひご来場ください。

聖望に続け！行くぞ全国大会

「消防操法」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。ポンプの始動からホースの延長・放水まで、消火活動に必要な一連の操作を総称したもので、四人ないし五人一組で実施します。

大きな動作は、初めて目にする人にとっては多少滑稽に見えるかもしれませんが、操法をしっかりと身につけることが、現場での安全確保と迅速での確かな行動につながっていきます。

来年は十月に横浜で全国消防操法大会が開催されます。飯能団は小型ポンプの部で全国大会出場を目指しています。前回開催された平成十二年は、飯能大会・埼玉西部支部大会を第十分団三部(当時)が勝ち進み、県大会へ出場し

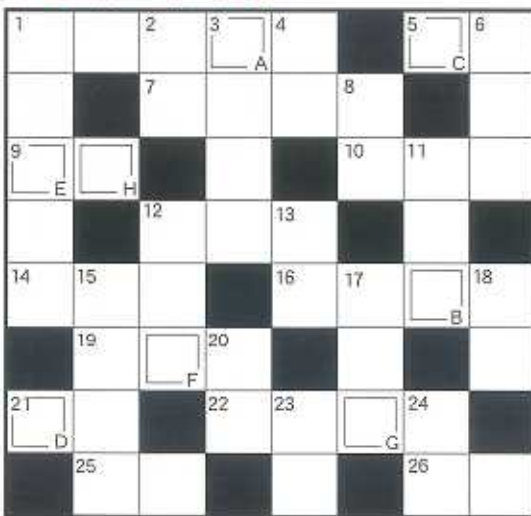


ました。しかし、入間市消防団に惜敗し、全国大会目前で涙を飲みました。

全国大会は、北海道から沖縄までの都道府県を勝ち抜いた精鋭が競う、消防団の「甲子園大会」とも言えます。

飯能団では来年こそ四年前の雪辱を果たすために、柿沼団長を先頭に、訓練担当の黒米副団長が中心となって県大会で優勝し横浜を目指します。分団によっては来年の寒いうちから、大会に向けて操法の練習を始めるものと思われます。夜間、号令などの声で多少ご迷惑をおかけするかもしれませんが、どうか温かい目で見守っていただきますようお願い申し上げます。

消防団 プレゼントクイズ第4弾 クロスワードパズル



答え ○○○○○○○○○

タテのカギとヨコのカギをたよりに、クロスワードパズルを解いてください。すべてのマス目を埋めて、8コの二重マスの文字をアルファベット順に並べると、消防団の行事の一つになります。

- タテのカギ**
- 桃太郎は鬼ヶ島に行きました
 - 〇〇との遭遇
 - 〇〇〇〇勘定抜きにして優しくする
 - 〇〇がネギを背負ってやってくる
 - 一休さんは〇〇〇の教えを守るお坊さん
 - 金太郎はこの動物に乗ってお馬のけいこ
 - 交差点では〇〇〇確認
 - 悪気があること
 - 〇〇尚早、まだ早い!
 - お腹いっぱい〇〇〇〇さま
 - 扇間の反対
 - おじいちゃん
 - 善意で金品を贈ること
 - 国語・算数・〇〇・社会
 - アフター〇〇

- ヨコのカギ**
- 歳末警戒も今日で最後です
 - キラキラ光る
 - しいーん…
 - エビで〇〇を釣る
 - エー!?〇〇〇そんな事は!!
 - 悪い事
 - 天国と〇〇〇
 - 宗教の創祖者
 - 〇〇〇を守る消防団
 - 本当の反対
 - ご飯にかける
 - キネと〇〇
 - 消防車の色

正解者の中から30名様に、豪華賞品(?)をさしあげます。官製はがきにて、クイズの答と、〒・住所・氏名・年齢・職業(学年)・電話番号・消防団に対するご意見ご感想を明記して、下記の宛先までご応募ください。〆切り:平成16年1月11日(日)出初式まで。宛先:〒357-0015 飯能市大字小久保291番地 防災センター

編集後記 カッコ良くになりたい、ほとんどの若者がこればかり考えている。外見はいざとなれば整形という手がある。では生き様をカッコ良くするにはどうしたらいいか。自分を律し、世間から認められなくてはならない。至難の業と言えそうだが、案外簡単だ。消防団に入ればいい。現役の団員がカッコイイかどうかは別として、消防団に入るという行為はまらがないなくカッコイイ。入団を表明するだけで、行政や地域からは称賛され、尊敬され、盛大に式まで挙げてくれる。若者を三顧の礼で迎えてくれる組織など他にはない。それ程大変で損な役目に見えるのだから、入ってみればそうでもない。少しの勇気があれば誰でもカッコ良くなる。

副団長 沼崎 修一

編集委員	浅見 浩司
団本部	石問戸 大
第一分団	島田 寛
第二分団	中村 光利
第三分団	増田 実
第四分団	須田 隆行
第五分団	師岡 正和
第六分団	西野 利行
第七分団	増田 政広
第八分団	谷澤 道明
第九分団	井上 彰
第十分団	中島 浩

※題字は吉田行男様にご協力をいただきました。